

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成29年3月23日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670105057
法人名	株式会社 メディコープ
事業所名	グループホーム おあしす坂之上
所在地	鹿児島県鹿児島市坂之上1丁目47番22号 (電話) 099-284-6636
自己評価作成日	平成29年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は入居者様と楽しむことを大切にしています。おひとりおひとりに合わせた活動を充実させ、日々の生活の中で共に楽しみながら、入居者様と心の通う介護に努めています。敷地内には菜園があり、入居者様のご家族様も手入れを下さっています。入居者様と職員で草取りをしたり収穫の喜びを味わうことで季節の変化を感じて頂いています。ボランティアの方々の協力も得ながら、季節ごとの行事や外出を企画しています。ご家族様にも参加して頂き、入居者様とご家族様が共に楽しんで頂けるよう配慮しています。協力医療機関、訪問看護ステーションとの24時間の連携と協力体制のもと、入居者様の健康管理、救急時の対応をさせて頂いております。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成29年2月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・町内会に加入し、地域行事の参加や資源回収にも協力している。中学生の職場体験学習の受け入れや近所からの野菜などの差し入れもある。認知症サポーター養成講座で地域に参加を呼びかけ一緒に行っている。
- ・ホールでの利用者は、書物を読んだりテレビを見たり、ぬり絵や漢字の書き取り・計算等をして、利用者の思いを大切に自分らしく、楽しく生活できる支援をしている。
- ・24時間医療連携体制が整っており、緊急時や重度化・終末期に向けて体制ができています。
- ・食事は栄養士の助言を貰い季節の野菜や果物を取り入れ食欲をそそるメニューにしている。菜園があるので収穫した物も調理している。
- ・消防署の指導や地域の協力を得て、年2回昼夜想定で避難訓練を実施している。防災マニュアルにより防火管理者を中心に年1回は自主訓練もしている。スプリンクラーを設置し消防の連動型装置を設置し通報の時間短縮になっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの理念を簡条書きにし、目につきやすい場所に掲げる事で、職員が意識付けをしている。職員は意識して地域との関わりを大切にしている。	理念は玄関やホールに掲示しパンフレットにも掲載している。理念をミーティングや職員会議で確認し、いつでも振り返りできるようにしている。新人職員へも研修している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、資源回収にも協力したり、地域の方々へ年2回の防災訓練への参加の声掛けも行っている。	町内会に加入し、地域行事や資源回収にも参加している。近所からの野菜などの差し入れがある。認知症サポーター養成講座で地域に参加を呼びかける等、日頃より交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	学生の職場体験学習や、介護実習生の受入を、積極的に行っている。また、認知症サポーター養成講座を開催し地域の方々が認知症への理解を深めていただけるよう働き掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議では評価結果や介護活動の状況等を報告し、意見や助言、要望等を出してもらい可能な限りその場で論議している。御家族代表以外にも参加をお願いし、率直な意見を頂いている。職員の話し合いが必要な内容の場合は懸案事項として、次回の会議で経過や改善内容を報告しサービスの向上に努めている。</p>	<p>定期的に会議を開催し、ホームの活動報告や外部評価結果報告などを行い、参加者からの情報や意見交換を行っている。質問や意見が多くサービス向上に活かしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>社会資源の活用や生活保護受給者の処遇についての相談や対応を行い、運営推進会議等で長寿あんしん相談センターともつながりを持ち、困りごとがあったときには相談できるような関係づくりに取り組んでいる。</p>	<p>認定更新時に、市の担当者と事業所の実情や相談をしている。運営推進会議などでも相談があれば話し合っている。行政主催の研修会にも積極的に参加し連携が取れるようにしている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、定期的に開催し、職員間で声掛けを行っている。また、利用者が外出しそうな時や不安な様子場合は、さりげなく声をかけ、職員が傾聴・共感しながら配慮している。日中は、玄関の施錠はしていない。</p>	<p>身体拘束をしないケアを実践している。高齢者虐待や権利擁護等についての勉強会を毎月行っている。身体拘束廃止委員会を中心に、身体拘束に関する指針を基に事例を出して、話し合い確認をしている。玄関の施錠は昼間は行っていない。外出希望の利用者には声かけや見守り支援で職員がさりげなく寄り添い対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	定期的に身体拘束や虐待についての勉強会を行い、職員に周知を図っている。また、外部研修に積極的に参加し、全職員で身体拘束や虐待のない介護を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員は内部研修等で高齢者の権利擁護について学ぶ機会をもうけている。現在、成年後見人制度を利用されている方はいらっしやらない。		
9		○契約に関する説明と納得 明るく	契約時には、時間をかけて丁寧に説明を行っている。重要事項説明書や契約書に基づき、ホームの介護に関する考え方や活動、入退居の条件も含めた事業所としての対応可能な範囲や医療連携体制、看取りの指針など詳しく説明し、理解、納得、同意を得た上で契約をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や家族会を開催し意見や要望等をお聞きし、意見や苦情は管理者が責任を持って対応している。必要な場合は職員で話し合い速やかに改善し、報告出来るよう努めている。また、外部の相談窓口については契約時に説明し、重要事項説明書での掲示を行なっている。	利用者には気軽に何でも言ってもらえる雰囲気づくりに努め、生活の中で意見を聞いたりしている。利用者は介護相談員に意見や要望を話す機会もある。家族からは面会時や家族会・運営推進会議等で、行事の写真を見ながら日常の暮らしや状況を報告して感じたことなど話し合い、意見を運営に反映できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月一回の職員会議や随時のミーティング時に職員の意見、要望等を話しあう機会を設けている。また、日々のコミュニケーションも大切にし、職員同士が話易い職場環境作り、関係作りに努めている。	管理者は職員会議やミーティングで意見を聞いている。利用者のケアや個人的なこと等、自由に相談できる雰囲気がある。日常的にも管理者に話しやすい環境作りに努めている。今後は、個別面接の機会を取り入れ、職員育成にも更に計画している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人役員と法人内の2つのグループホーム・4つの小規模多機能ホームの管理者で運営会議を月に1回開催している。それを通して、代表者も職場や職員の状況を把握し、職場環境や条件の整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	行政主催の研修会や、グループホーム連絡協議会の研修、介護福祉士会主催の研修会に参加できるようにしている。参加しやすいように勤務体制の調整をしている。研修受講後は職員会議で研修の報告を行っている。年間研修計画を作成し、それに基づいて内部研修も行っている。また、資格取得も奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、勉強会に参加している。介護福祉士会主催の研修、医療生協主催の中堅職員の研修に参加し相互のケアの方法等の情報交換や交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談があった際は、施設見学や事前面談を行い、心身の状態や生活状況、希望等を把握するようにし、利用開始までにグループホームに対する不安や思いを、可能な限り和らげるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始の前段階で、ご家族の苦労や悩み、介護状況、希望等についてお聞きしている。ご家族様や本人様の要望等をお聞きし職員間で共有しどのような体応ができるか検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、本人や家族の状況をよく聴き、利用開始までの一連の手順を説明している。空室がない場合や、相談内容がグループホームの役割と異なる場合は、他の事業所のサービス利用の説明等の対応を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の会話や生活の中で変化を見つけられるようにしている。日々の生活（食事やレクリエーション、掃除等）を一緒に行う事で、小さな変化に気付けるようにしている。また、生活の中で一人一人が役割を持ち、楽しく、自信を持っていただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用開始時に「家族と事業所（職員）が相協力して利用者を支援すること」を確認している。面会時や電話などでは、利用者の普段の様子や行った事など細かく報告し、利用者、家族、職員が良い関係であるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方や知人の方々との贈答品や手紙のやり取りを継続できるように支援している。	馴染みの知人・親せきの面会等でゆっくり懇談している。家族と一緒に馴染みの店で外食を楽しんだり、墓参りに行っている。近所の人や地域との馴染みの関係作りで地域行事に参加している。電話での連絡を取りついでつながりが継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性が円滑に保てるように、職員が間に入り、コミュニケーション作りに関わったり、会話が途切れそうな時は、職員が会話の橋渡し等を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了された方や、他の事業所へ移られた方でも、お見舞いや面会に行ったり家族とお話をするなど、関係が途切れないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様中心のケアに努めるようにしている。表情等から気持ちを受け止め共感し傾聴している。把握が困難な入居者様の場合は御家族様から情報を得て職員同士の話し合いの中で介護に反映させている。	日々の関わりの中で、言葉や表情から推測し、暮らし方の希望を把握している。入浴時やくつろいでいる時などに、ふと出た言葉や表情を汲み取り、思いや意向を察知して、支援に活かしている。家族の面会の時も、状況報告を行い、本人の意向を聞いている。困難な場合は家族からも情報を得るようにして本人中心の支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前は本人や家族との面談で把握するようにしている。入所後は日常の会話や、ご家族、知人の面会時に話をし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを職員全員で把握し、日々の言動・行動や表情からの気付きを大切にしている。利用者本人が出来る事を見出し、役割り作りを行い、状態把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族には普段の生活の中で、意見や思いなどを聞き、介護計画に反映させるようにしている。また、職員の意見をカンファレンスや日常のミーティング等を通してひとりひとり周知し把握して介護計画の作成に活かすよう努めている。	利用者や家族の意向を反映し、介護計画を作成している。課題分析をしてその人らしい生活ができるように計画を作り支援している。カンファレンスは毎月、モニタリングは3ヶ月毎、担当者会議は6ヶ月毎に実施し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき、日常の様子観察を行いながら水分量・食事・排泄など中心に把握し行動・言動にも着目しながら記録を残し情報を共有し周知している。その中で介護計画の見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の多忙な時は諸手続の代行や、受診等を行っている。また、季節にあわせて花見やドライブなど楽しんでいただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に町内会区長、民生委員、長寿あんしん相談センター職員、消防署にも参加してもらい、地域行事の情報や助言をもらっている。また、防犯や防災、利用者の無断外出などでは管轄の交番や消防署の協力ももらい支援を行なっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時や利用者の心身状態に変化があった際にかかりつけ医について相談し家族や利用者の意思を尊重して決定している。協力医療機関にかかりつけ医の変更を希望される場合には、前主治医からの情報提供や同意を得て変更を行なっている。また、利用者の健康状態を、かかりつけ医と事業所が連絡・相談できる関係づくりを行なっている。	本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。2週間に1回訪問看護師が健康状態の把握をしている。複数の医療機関と関係を密にし、適切な医療が受けられるようにしている。受診は家族が行けない場合は職員で行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>職員は日常生活の関わりで気付いたことを訪問看護師やホーム看護師に相談している。利用者それぞれが適切な受診や看護を受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は主治医・看護スタッフ・家族との連携を密接にとり、対応している。管理者や職員がお見舞いに行き入院中も利用者が安心感を持ち早期退院ができるように支援している。退院前は医師や家族との話し合いの場に参加し退院後も安心して過ごせるよう努めケアについて助言を頂いている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合の指針を作成しており、利用開始時（契約時）に説明を行なっている。また、重度化した場合には、家族や本人の意思を尊重し、協力医療機関や契約している訪問看護ステーションとの連携を取りながら事業所として対応し得る最大限の介護を行えるようにしている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた説明を行い同意を得ている。重度化した場合は、指針に沿って、本人や家族の意向を踏まえ、主治医・職員・看護師と話し合い支援をしている。状況変化に応じた話し合いを繰り返し行い、段階的に説明して家族の気持ちの変化に合わせて、医療連携し家族の理解のもと進めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的に内部研修で看護師を講師にした救急手当や蘇生法の学習会を実施している。また、夜間時の救急対応についてはマニュアルを作成し周知徹底を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、消防署の協力を得て、避難経路の確認・避難誘導の方法・消火器の使い方・通報訓練等を実施している。合わせて、地震想定の実施している。地域の協力体制については運営推進会議で、町内会区長や民生委員さんに協力をお願いをし、防災訓練前に地域の方々や入居者御家族も参加をお願いしている。</p>	<p>消防署の指導のもと、地域の協力を得て年に2回、昼夜想定で避難訓練を実施している。防災マニュアルにより防火管理者を中心に年1回は自主訓練もしている。スプリンクラーを設置し消防の連動型装置を設置し通報の時間短縮になっている。備蓄品として水・缶詰・インスタント食品・コンロ等がある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄等の声掛けはさりげない言葉掛けに配慮し、失敗があっても出来るだけ周囲に気付かれないように処理している。 個人情報取り扱いについては内部研修等で個人情報保護の徹底に努めている。1人になりたい時には居室で自由に過ごして頂けるように配慮している。	排泄や入浴・更衣等の時は誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに努めている。トイレや入浴時はドアを閉めている。居室の入室時はノックし了解を得ている。馴れ合いになりがちな場面を注意し合い配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活場面において、献立を立てるときに何か召し上がりたい物はないか、更衣の際にどの服を着たいか、外出を企画する際はどこに行きたいかなど伺い、入居者様の希望や「選ぶこと」「自分で決めること」を大切に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の日課はあるが、あくまでも全体的な目安とし、ひとりひとりのペースや希望、その日の体調や気分などによって、食事時間や散歩、入浴など柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣や好みで自己表現ができるように支援している。理美容の訪問サービスでは好みの髪型になるように、希望を聴きながらカットや毛染めをしてもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を取り入れ献立作りに反映したり、下膳、片付け、お盆ふきなどできることは職員と一緒にやっている。また、利用者と一緒に採った畑の野菜などの食材を調理している。	献立は栄養士に、栄養バランスや食事形態・食材のアドバイス等を受けている。菜園があり食材として一緒に採取したり、刺身の希望で外食したり、行事食・誕生日の食事も提供している。利用者は、個々に応じ職員と一緒に下膳等をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	協力医療機関の管理栄養士の指導を受け、バランスの取れた食事の提供を行っている。また、水分チェック表、食事チェック表をもとに一人一人の摂取量の把握を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の保清に努めている。状態に応じて歯科の往診を依頼し口腔内の清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自立支援を念頭において各個人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行いできるだけ自然排泄できる環境を整えている。尿意のない入居者様はトイレでの排泄ができるよう声かけ支援している。	排泄チェック表を使用し排泄パターンを把握している。さり気なくトイレに誘導して自立支援を促している。布おむつや紙パンツ・パット類を検討し自立に向けた取り組みをしている。トイレが安心して使えるように手すり設置等の配慮もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通を促すため、食物繊維の多い食材を取り入れたり水分をきちんととって頂いている。また、散歩やレクリエーション活動、体操等で身体を動かす機会を設けて、自然排便できるように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	体調・空調・順番に配慮し、入浴が好きな方、苦手な方、それぞれに対応した声かけを工夫している。又、入浴しやすい環境作りに努めている。	入浴は週に2回、利用者の希望を確認し曜日や時間を配慮し入浴順を変えたりしている。入浴時の羞恥心がないようにしたり、転倒や安全に注意し、気持ちよく入れるように支援している。入浴を嫌がる利用者は無理強いないようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レクリエーション等で、日中の活動を促し、生活リズムを整えている。また、体調や疲労感にも配慮し、休息を促す等配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が服薬の内容を把握できるように専用のファイルを作成し、薬の説明書を整理している。服薬の変更があった時は申し送りノートへ記入し職員全員が周知できるようにしている。与薬時は職員2名で名前の確認を行い、直接手渡し、服用されるまで確認を行なっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居者様ひとりひとりの役割、楽しみが持てるように環境づくりに努め得意な事、できる事を把握しお願いしてお手伝いいただいている。感謝やねぎらいの言葉で、入居者様がいきいきと生活できるよう支援している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>ご家族様の協力を得ながら自宅で過ごされたり、ご家族で過ごす時間を持っていただいている。天候や入居者様の要望を考慮しながら、ホームの行事や外出の計画を立てている。</p>	<p>戸外に出て事業所周辺の散歩やその日の要望で気分転換ができるように支援している。車いすの利用者もリフト車で出かけている。大型スーパーマーケットでの買い物や外食・花見・動物園見物等、計画を立て、外出支援をしている。花見は家族も参加して外出の機会を多く作っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理はご家族にお願いしており、必要時はご家族に承諾をもらい、物品等を購入している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>入居者様の希望に沿って電話をかける支援を行ったり手紙や贈答品を送る支援をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間に隣接する形でキッチンがあり、包丁で野菜をきざむ音や、料理の匂いが自然としてくるなど、五感を刺激するような工夫をしている。また、畳の設置や、照明も柔らかいものを使用し、季節感を感じられるような飾り付けをし居心地良く過ごせる工夫をしている。</p>	<p>ホールは広く採光を取り入れ日当たりが良く明るい。季節の花を飾り植物の鉢を置き季節感を取り入れている。壁には、手作り作品の飾りつけをしている。キッチンも、利用者と会話ができる。畳のスペースもあり、利用者が穏やかに居心地よい時間を過ごせるように工夫されている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>座席の位置を仲の良い方と近くになるように工夫している。また、ホールに畳のスペースを設置し、外を眺めたり、ゆっくりと過ごせる空間を作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族に協力をもらい本人の好みのもや使い慣れた家具を用意して頂いたり、本人の身体状態に合わせた配置を行っている。</p>	<p>居室はエアコンや洗面台が設置されている。ベッドや仏壇・家具・テレビ・布団等の持ち込みがされ、家族写真やぬいぐるみ・手作り作品等、好みのもを傍に置き、利用者が居心地よく過ごせるようにしている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレ、浴室などの手すりは利用者が使いやすく、自立した生活と安全性の面でも配慮している。トイレには利用者がわかりやすい表示をしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない